

史跡綴喜古墳群(京田辺市域)保存活用計画

令和 7 (2025)年 3 月

京 田 辺 市

序 文

綴喜古墳群は、4世紀から5世紀にかけて、京田辺市から八幡市にわたって造られた古墳群です。古くからその存在を知られ、戦前には京都府によって設置された京都府史蹟勝地調査会による調査も行われました。令和3年に本市が実施した天理山古墳群の試掘調査によって、天理山古墳群が首長墓として「再発見」されたことで、綴喜古墳群の一体性がより明確なものとなり、その後、「木津川左岸首長墓群専門家会議」で同試掘調査を含めたこれまでの調査成果をもとに検討が行われました。同会議での検討結果を踏まえ、京都府教育委員会から史跡指定の意見具申が提出され、令和4年11月10日に、同古墳群のうち、昭和49年に既に史跡指定されていた大住車塚古墳を含め、天理山古墳群、飯岡車塚古墳、八幡西車塚古墳が「史跡綴喜古墳群」として国の史跡指定を受けることとなりました。

本市では、「史跡綴喜古墳群」を守り、後世へ伝え、古墳群が郷土の誇りとなるよう史跡を保存活用するため、「史跡綴喜古墳群（京田辺市域）保存活用計画」を策定しました。都市整備が進む本市において、この貴重な古墳群をどのように保存し、活用を図っていくか検討するため、「京田辺市綴喜古墳群保存活用計画等検討会議」を設置し、令和5年度・6年度の2ヶ年をかけて、同古墳群の本質的価値や京田辺市における位置づけ、今後の保存や活用、調査、整備における考え方についてご議論をいただき、本計画の策定を行ったものです。

また、今回の端緒となった天理山古墳群の試掘調査は、同古墳群が所在する丘陵地の宅地開発が民間事業者により計画されたことに伴い実施したものです。

その後、前述のとおり国の史跡に指定され、史跡指定地は令和4年度・5年度に市有地となりました。天理山古墳群が所在する丘陵地は里山としての豊かな自然環境が残っており、国の名勝に指定されている酬恩庵一休寺の庭園の借景でもあります。この場所を守ることができたことは本市にとっては大きな成果であり、今後は本保存活用計画に基づき、市民をはじめ多くのみなさまのご意見を頂きながら整備し、活用を図って参りたいと考えております。

結びに、本計画を策定するにあたり貴重なご意見とご指導を賜りました検討会議委員の皆様や、文化庁、京都府教育庁文化財保護課、京都府立大学をはじめとする関係各位に厚く御礼申し上げます。

令和7年3月
京田辺市長 上村 崇

例　　言

- 1 本書は、京都府京田辺市大住八王寺、薪山垣外、飯岡西原に所在する、史跡綴喜古墳群(大住車塚古墳、天理山古墳群、飯岡車塚古墳)の保存活用計画である。
- 2 この保存活用計画策定事業は、京田辺市が主体となり、令和 5 年度及び令和 6 年度の事業として、文化庁の国庫補助事業(史跡等保存活用計画策定事業)として実施した。
- 3 計画策定にあたっては「京田辺市綴喜古墳群保存活用計画等検討会議」を設置・開催し検討を行うとともに、文化庁及び京都府の指導を受けながら京田辺市が策定した。
- 4 本計画は、今後の史跡を取り巻く社会的環境等の変化により、再検討や修正の必要が生じた場合には、適宜見直しを行うこととする。
- 5 本計画策定に際して、『令和 5 年度受託研究 史跡綴喜古墳群の整備・活用に向けた樹木管理のためのレーザ測量技術を用いた基盤情報整備』として植生調査及び鳥類調査、その他レーザ測量等の調査を京都府立大学に委託し実施した。第 2 章第 2 節(4)をはじめとし古墳群内の植生等の記述に際しては、その調査成果を元にしている。

目 次

第1章 計画策定の目的	1
第1節 計画策定の沿革	1
第2節 計画策定の目的	3
第3節 委員会の設置と経緯	3
第4節 他の計画との関係	9
第5節 計画の実施	17
第2章 史跡綴喜古墳群を取り巻く環境	19
第1節 地理的環境	19
第2節 自然的環境	20
第3節 歴史的環境	30
第4節 社会的環境	38
第3章 史跡綴喜古墳群の概要	41
第1節 指定に至る経緯	41
第2節 指定の状況	42
第3節 土地の状況	49
第4節 各種法令による位置づけ	50
第5節 史跡綴喜古墳群の概要	56
第4章 史跡綴喜古墳群の本質的価値	65
第1節 史跡綴喜古墳群の本質的価値の明示	65
第2節 史跡綴喜古墳群の構成要素	68
第5章 保存活用の基本理念(目標)と基本方針	75
第1節 基本理念(目標)	75
第2節 基本方針	75

第6章 保存管理	77
第1節 保存管理の現状と課題	77
第2節 保存管理の方向性	80
第3節 保存管理の方法	87
第4節 植生管理	94
第5節 史跡の保存に関わる法的・行政的措置	94
第6節 災害の予防措置と発生時の対応	95
第7章 活用	97
第1節 活用の現状と課題	97
第2節 活用の基本方針	98
第3節 活用の方法	99
第8章 調査	101
第1節 調査の現状と課題	101
第2節 調査の基本方針	104
第3節 調査の方法	105
第9章 整備	107
第1節 整備の現状と課題	107
第2節 整備の基本方針	109
第3節 整備の方法	110
第10章 運営・体制	115
第1節 運営・体制の現状と課題	115
第2節 運営・体制の方向性	115
第3節 運営・体制の方針	115
第11章 実施計画	119
第1節 実施計画	119

第12章 経過観察	123
第1章 経過観察の方向性	123
第2節 経過観察の方法	123

